

「ありのまま」

真の女性の社会進出とは？

前田圭子 (福島移住女性支援ネットワーク事務局)



子どもたちが伸びやかに「ありの～ままで～」と気持ち良さそうに歌っている場面によく出会います。この歌の原題の「Let It Go」は、シンプルに関西弁で表現すると「頑張ったけど、もうあかん、どうとでもなって～」と結構、自暴自棄的な時に使うようなニュアンスかと思っていましたが、雪の女王様がそんな投げやりなことを歌うストーリーなのか、映画を観ていない私にはわかるはずもなく、こんなことなら観ておけばよかったと地団駄を踏んでいます。日本語の「ありのまま」は、嘘、偽りのないという意味ですが、あまり日常的には使われない表現です。日本語訳の「ありのままで～」がヒットしたのは、子どももおとなもこの社会の中で、何かにがんじがらめにされ、閉塞感を感じているからなのでしょう。

さて、雪の女王様ではなく私の話です。私は仕事の都合で長年、自宅から離れたところで働いています。ある時、知り合いが私の連れ合いを褒めてくださったことがあります。曰く「前田さんが自由に色々なところで活動できるのは、理解あるご主人がいるからね」と。私はつねに連れ合いとは対等な関係です。互いにそういう価値観だからともに暮しています。しかし、そういう「ありのまま」の私は、一般的な社会通念から見ると「ありのまま=自分中心」で、それを守り許す家族がいてこそ、ということになるのでしょうか。そしてこの表現は、立場が逆転した時にも使われます。「あなたが自由に仕事ができるのは、理解し家庭を守る奥さんがいるからね」と。私は家族をととても大切に思っていますが、「理解あるご主人」という表現の中に、私が自由に働くために犠牲になっている家族のイメージがどうしてもついて回ります。海外で有名な俳優が映画祭に出席した時、記者が「留守にしている間、あなたの子供はだれが面倒をみているのか？」と問うと、彼女は「どうしてそのような質問をするのか、私が男だったらあなたは同じ質問をするのか？」と切り返したそうです。日本では男女を問わず、社会で活躍する際にはさまざまな「犠牲」が話題になります。日々の暮らし、家族、自由な時間。それらを犠牲にしてこそ、社会進出が可能になるという悲しい構図です。

春に現安倍政権が成長戦略の一環として発言した「女性の活用」発言にはがっかりしました。「活用」という言葉に能動的な意味はありません。批判され、いつの間にか「女性の活躍」と言い換えています。今回の改造内閣で首相の周りを女性閣僚が取り囲んでいる写真はまさに「女性の活用」そのものです。おかげで内閣支持率が上がりました。

雪の女王に戻りましょう。「Let It Go」の英語の歌詞に

It's time to see what I can do

To test the limits and break through

No right, no wrong, no rules for me

I'm free!

という一節があります。日本語詩では「どこまでやれるか自分を試したいの そうよ変わるのよ」となっています。原詩は「何ができるか試してみる時がきた 限界を知り そしてそれを打ち破ってみせる 私には正解も不正解もルールもない 自由なのよ」となるのでしょうか。原詩を歌う雪の女王は力強い。まさに嘘、偽りのない「ありのまま」です。女性、男性を問わず、社会通念の限界を打ち破り、社会にもそして家庭にもどんどん進出し、自由に活躍する社会に日本はいつなるのでしょうか。

前田さんは神戸YWCAの職員として12年間勤務され、その間に起こった阪神淡路大震災では神戸YWCAの救援センターのリーダーとして活躍された。神戸YWCAを退職後は日本YWCAをはじめ、各地のYWCAで活動され、現在にいたる。

世界YWCA・YMCA 合同祈禱週

11月9日(日)～15日(土)

「変革をもたらす大胆なリーダーシップ」

今年は、アジア、アフリカで活動する運動体「声なき者の友の輪」のメンバー、柳沢美登里さんをお迎えします。ぜひご参加ください!

講演会「21世紀にキリストを生きる」

11月10日(月) 18:00～ 参加費：500円(簡単な茶菓あり)

礼拝「この時代に境界線を越える」

11月11日(火) 9:00～ 参加費：無料

場所：両日とも神戸YWCA会館5階チャペル

地域の日本語

—外国にルーツをもつ子どもたちとともに—

「あんな笑顔は学校では見たことがない」「いつも無口なのに授業で発言している」生徒が通う学校の先生方の、授業見学をした際のコメントが印象的だ。”わかる日本語”での授業に、面白さを実感している彼らの様子だ。

日本語コースでは毎年夏の3週間、外国にルーツをもつ子どもたちのために無料で「勉強に役立つ日本語クラス」を開講している。諸事情で来日し、日本の学校に通っている生徒たちは、日本語力不足のために持っている能力を発揮できないでいる。子どもは話し言葉はすぐ覚えるが、書き言葉で書かれている教科書は難しい。日本語を基礎から学ばない限り授業の内容は理解しにくいのだ。

神戸YWCAは長く日本語教育に携わってきて、日本語指導においては実績がある。今後日本で生活していく子どもたちのために、このスキルを役立てようと考えてきた。

当初文化庁委託事業として始まったが、昨年度からこの助成金はなくなり、



存続か撤退かの選択を迫られることになった。本来行政がすべきことではある。しかし、地域貢献を掲げている神戸YWCAならではのこの事業は、今では学校、市県教委を始め、広く周知され、必要とされつつある。そこで神戸YWCAは、寄付を募ってこの事業を継続する方向を選択した。幸い、この事業の意義を認めてくださる個人、会社、団体からの募金が集まり始めて

いる。温かいお気持ちにこの紙面を借りてお礼申し上げます。この事業には教育の質の保障が重要である。多くの方々に意義を伝え、広く支援をお願いしたい。

外国にルーツをもつ子どもたちが日本に定住し、共にこの社会を支え合う関係になることを心から願っている。

(日本語コース主任講師 斎藤 明子)



グループの活動を紹介します！

声の奉仕

私たちは、視覚障害者への朗読ボランティア活動を行なっています。

私たちが、視覚障害者への朗読ボランティア活動を行なっています。

今年会員になりたての新人も含め、永田俊子講師のもと総勢15人、バラエティに富んだメンバーで日々研鑽に励んでいます。

「日赤声の図書奉仕団」に所属しているため、月2回の例会での勉強会、企画検討会以外は、日赤での活動が主になっています。「日赤声の図書」発行の、声の月刊誌『花時計』、『PHP』、季刊誌『つちのこ』の制作に携わり、これらを一枚のCDにまとめた「声のアルバム」の制作作業を毎月行なっています。

また個々には単行図書録音、校正、編集などもあり、近年デジタル化されてPCを駆使しての作業は、ちよっと年齢の高い私たちでも時代に乘れている感じがして、楽しくもあります。写真にあるように、声の雑誌を制作するため皆で集まり、番組内容を相談して60分程のものに仕上げます。目下、『花時計』『つちのこ』10月号の編集作業に取りかかっています。

毎年11月23日にリスナーとの交流会があり、「日赤声の図書」として年一度の大仕事です。多岐にわたる活動ですが、それぞれの得意分野を生かして分担して活動をしています。

(松本 裕子)

❖ 3市YWCA交流会

秋晴れの9月13日(土)、京都YWCAで3市YWCA(京都・大阪・神戸・見学に名古屋)交流会が開かれた。

今回は改修された京都YWCAの会館見学と新事業の紹介が主であった。

今社会の問題になっている「サービス付き高齢者向き住宅、自立援助ホーム、留学生の居室」が一つの建物に集められた。「うららカフェ」と会員のためのスペースが今後活動を期待される場のようだ。

各市YWCAの活動紹介やグループディスカッションもあった。

参加者は61人(内神戸YWCAは14人、70代から10代の各世代の参加)。次年度開催は神戸YWCA。

(鶴崎 祥子)

外国人支援についてディベートしました。いろんな世代の人たちといるんな意見を持った人たちと話せてそんな考え方もあるんだなと思いました。自分の意見もしっかり言えたので嬉しかったです。また、このようなことがあったら参加してみたいと思います。(古田 結菜)

◆ 会員の皆さま ◆ 次期運営委員・指名委員 候補者推薦のお願い

成人会員(18歳以上)の中から次年度の運営委員・指名委員候補者の推薦を会員の皆様をお願いいたします。

運営委員の任期は1期2年で連続3期まで再選可能です。

指名委員は任期が1期1年で、成人会員から3人、運営委員から2人が選出され、次年度の運営委員・指名委員候補者を選考します。

(担当 寺内 真子)

「のぞいてツアー」リユニオン

いったい何から何をどう防ぐのか、もう分からなくなるような息苦しさ、そこで出会う人たちと過ごす時間の嬉し楽しさの連続の、旅だった。

8月の7~10日に被災者支援プロジェクトの4人で、福島県いわき市・福島市・南相馬市、宮城県石巻市、女川町を訪ねた。このツアーには、これまで神戸Yの保養プログラムに参加してくれた家族に会いに行くリユニオンという目的と、自分たちの足で現地を訪ね、そこで暮らす人たちに出会い、関西にいただけでは知り得ないことを見聞きするという目的がある。これまで被災者支援プロジェクトで行った保養プログラムの目的は、「放射能被災下にある親子を少しでもほっとできるところで過ごしてもらおう」ということ。これまで自分たちが出会ってきた人たちとは、福島現地でお会いなおし、出会えなかった人たちには、出会い話を聞く、ということが、今回のツアーでやりたかったことだった。

何人にも会ったけど、ぼつりぼつりと話してくれる言葉の中に出てくる思いは、本当にさまざま。3年以上がたち、経験してきたこと、そこから感じたこと、行動してきたことは、こんなにも複雑で、一筋縄ではいかないのだなということの思い知らされた。自分が3.11以降経験してきたことが怒濤のように思い出され、胸がざわざわした。自分は今何の立場でどの地点にいるのか、それを考え振り返らせられる旅だった。ツアーの詳細は被災者支援プロジェクトの報告書に載せる予定。ぜひお読みください。

(鍋谷 美子)



ひまわり畑の奥に、白いフェンスに囲まれた広大な放射性廃棄物(除染土など)の仮置き場が…(南相馬にて)



私と神戸YWCAの
出合いは、中山手の会
館の前をたまたま通り、

神戸YWCAの看板を見た時である。当時、私は大学生で、キリスト教信者になったばかりだった。会館の前で、「どんなところ？」と興味をもちつつも、敷居が高く感じられ、そのまま通り過ぎてしまった。

その後結婚し、神戸を離れ、九州に住んだ。福岡にいる時、福岡YWCAへアメリカ人女性神学者の講演を聞きに行ったことがある。その講演はフェミニニスト神学から見た聖書の女性の話だった。ルツが自ら選んだ生き方に高揚した。

そうして、再びYWCAに出会った時は20年が過ぎていた。王子公園にあった会館の専門学校で学び、卒業と同時にYWCAの日本語教師の機会が与えられ、また20年が過ぎた。この間、多くの人と出会い、楽しいこと辛いことを経験したが、それらによって、今の私があると思っている。

現在は「まごの手」でヘルパーをしながら、キリスト教教基盤部、バザー実行委員会の一員に加えていただき、敷居の高い所のだ中にいる。今度は敷居の低い活動とは何かを考えつつ、自分のできることをやっていきたいと思っている。

(野村 春美)

神戸YWCAへのおさそい

●理科実験工作教室 (小学生対象)

10月18日(土)
「ふくらむスライムであそぼう」
場所 雲中地域福祉センター
11月22日(土)
「さとうが変身!カルメやきをつくらう」
場所 神戸YWCA本館
時間 いずれも10時~11時30分
参加費 1回200円

●文学講座

10月21日(火)・11月18日(火)
13時30分~15時30分
『徒然草』
講師 笠原芳光さん(京都精華大学名誉教授)
参加費 1,500円

●アフタヌーン・ティー

「なごやかな老いを生きるために一遺言を中心に考える」
10月7日(火)14時~16時
講師 伊東香保さん(弁護士)
参加費 800円

●マザースカレッジ公開講座

「絵本の絵を読むー絵本をよりよく楽しむためにー」

神戸YWCA ふれあいバザー 2014

入場無料!

神戸YWCA本館

10/13(祝) 10:30~14:30

10月30日(木)10時30分~12時30分
講師 正置友子さん(元聖和大学大学院教授)
参加費 1,500円

●待降節のアフタヌーン・ティー

12月2日(火)13時30分~16時
腹話術・クリスマスキャロル
出演 やないあつ子さん(腹話術師)
参加費 1,500円

●神戸YWCA クリスマス

12月6日(土)13時30分~15時30分

(注) 場所の記載のないものはすべて神戸YWCA会館

■運営委員会報告

(9月)【報告】3市YWCA交流会▶世界YM・YW合同祈祷週【議事】運営委員会の役割について▶クリスマス献金について▶全国会員フェスタin沖縄の参加補助決定▶「市民の力で原爆の図をアメリカへ」に賛同▶沖縄タイムスについて。(鶴崎 祥子)

■編集後記

年毎に異常な気象と災害が増えているようで心痛みます。爽やかな実りの秋となることを祈ります。(K・Y)

2014年度の
会費、まだの方は
お早めに!



■学院だより

今夏の日本語関連のプログラム。7月8日から10日間、上海師範大学天華学院から学生23人と教師2人が来日。日本文化体験と交流を行なった。7月22日から3週間、夏季日本語集中講座を開講。2クラス29人が日本語教師を目指す実習生から日本語を学んだ。また中高生を対象とした「勉強に役立つ日本語クラス」が3週間開催された。1日は「ひょうごっ子ふるさと塾」の助成金を得て淡路島へ遠足にでかけた。8月12日から3カ月間、外国人対象の公共職業訓練コースを開講。就職に向けて日本語やITについて13人が学んでいる。

(学院長 寺内 真子)

■まごの手だより

今年6月から分室でまごの手カフェ、介護相談室を月1回第4週木曜日14~16時に

開催している。地域の方に「神戸YWCAまごの手」をもっと知っていただき、利用者に繋がったとの希望である。

こだわりのコーヒー、紅茶、ケーキグループのケーキでもてなしている。また、中央むつみ会の方たちがケーキ、クッキーを販売に来られる。

8月は12人の地域の方が来られ賑やかにおしゃべりをして楽しい時間を過ごされた。一人暮らしで困った時はどうしたら?ベッドを借りたいか?など相談された。地域に開かれた居場所になればと願っている。(松田 恵美子)

■分室だより

分室では、曜日ごとのプログラムがある。月曜日から金曜日までは、「わいわいランチ」のボランティアが、「おいしく食べてね」の思いをこめてお弁当を作り、盛り付け、配達

する。

出来立てのお弁当は、利用者ひとりひとりに手渡しをする。お元気な顔で受け取っていただけると安心し、いつもと違う様子ときは、情報に関係機関につなげる重要な見守りも行なっている。

(大江 雅子)

今年のTTW (Taste the World) は…?

わたしやあなたが難民になる日?

難民についてワークショップを通して考えます。今年の食事はヒミツ!

10月18日(土) 17:00~19:00

講師: 中尾秀一さん(難民事業本部関西支部)

場所: 神戸YWCA 5階チャペル

参加費: 800円、学生500円(高校生以下は無料)

10月14日(火)までにお申し込みください!

主催: 国際相互支援部

ゴーフル®
いいものは時代をこえて
生き続けます

神戸且月堂

本社 神戸市中央区元町通3丁目3-10 TEL(078)321-5555
URL <http://www.kobe-fugetsudo.co.jp>

(有) 佐野葬祭
代表取締役 佐野 睦 (日本基督教団 甲東教会会員)

いーく に みくに
0120-592-392 (24時間受付)

宗教を問わずあらゆるお葬儀をプロデュースさせていただきます
尼崎市潮江4丁目2-2
URL: <http://sanosousai.com>